

大間原子力発電所建設無期限凍結を求め、各政党への要請活動を実施

大間原子力発電所建設の無期限凍結を求めるため、函館市議会議員団として、各党派代表者による、自由民主党、公明党、民主党、日本共産党への要請活動を行いました。

要請先

・自由民主党
塩崎 恭久衆議院議員
前田 一男衆議院議員
・公明党
横山 信一参議院議員
佐藤 英道衆議院議員
・民主党
横路 孝弘衆議院議員
中川 正春衆議院議員
荒井 聰衆議院議員
・日本共産党
紙 智子参議院議員
大門実紀史参議院議員
笠井 亮衆議院議員

までの大間原子力発電所建設にかかわる経過、昨年の建設工事再開の経過、モックス燃料や活断層の問題、函館市と大間町との近さなどについて説明をしたほか、函館市議会全会派による超党派の要請であることを強調し、大間原子力発電所建設の無期限凍結を強く求めました。

要請日

・平成25年2月21日(木)

要請者

・函館市議会
副議長 板倉 一幸
・市政クラブ
会長 吉田 崇仁
幹事長 佐古 一夫
・民主・市民ネット
会長 福島 恭二
幹事長 斉藤佐知子
・公明党
幹事長 松宮 健治
・市民クラブ
幹事長 佐々木信夫
・日本共産党
幹事長 紺谷 克孝
本間 勝美

内容

自由民主党

大間原発の問題は、よく地元と相談をして、国、政府が最終的に決断をしなければならぬ。原子力規制委員会が良いからといってすぐ稼働とはならない。今、活断層の問題など調査しているが、どのような最終結論を出すのかよく見ながら、最後は政治が地元の声を聞きながら決める。大間原発の建設は、青森の問題だとこちらでは言われているので、今回の要請は非常に意味のあることで、函館市議会初となる超党派での行動の重みをしかと受け止めた。



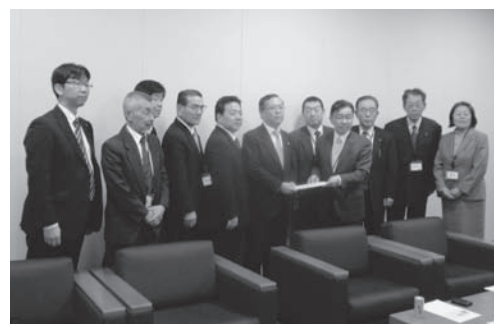
自由民主党への要請

公明党

函館市、函館市議会が電源開発に対し、地元の意見を聞くことや説明を求めたのにもかかわらず、そうしたことが一切ないまま建設再開に踏み切ったことは非常に遺憾なことである。函館市議会をはじめ渡島管内の各議会でも意見書が出されたほか、一昨日も渡島管内の首長や議会関係者も見えらるなど、公明党としても重く受け止め、皆さんと一緒に歩調を合わせていきたい。

民主党

新規の原発を作れば使用済み燃料の捨て場がなくなる。大間だけではなく日本全体の原発をどうするか考



公明党への要請

える上で非常に大事な問題である。大間の問題はしっかりと取り組んでいきたい。大間原発は世界初のフルモックスの原発で制御が難しく、活断層の話もあるの

で、原子力規制委員会は、避難計画がない原発は稼働させないという相当高いハードルの安全基準を作るのではないかと。大間原発は軽水炉ではなく重水炉で作る計画があったが、採算が合わないとして軽水炉に戻した経緯があり、原子力規制委員会でも同様の話が出てくるのではないかと。

日本共産党

電源開発は原発の実績がない。今ここにきてわざわざ危ない原発を作る必要は

ない。ただ反対と言うのではなく、国が責任を持って対策を考えている等の展望を示しながら撤退の方向に向けていきたい。

大間原発は、無期限凍結どころか断念すべきである。下北側と北海道側の市町村同士がぶつかるのはい話ではない。北海道と青森県で話し合いの場を持つとか、国が北海道の意見を聞く形を作る必要がある。福島第一原発事故が収束していない状況で、新たに原発を作るとは論外である。初の超党派での行動、オール函館の思いをしつかり受け止め、国会でも超党派で議論していきたい。

※ 今回の要請を通して、意見交換の中ではそれぞれの立場での回答がありました。特に市議会全会派、超党派での要請ということについては各政党ともに重く受け止めていただきましたことから、今後とも議会による要請活動が大変重要であると感じました。

※ 詳細は函館市議会のホームページに掲載しています。